

# 観光来訪者行動データの分析による観光促進プロジェクト 自転車の移動履歴(経路・滞留時間)把握による観光動向把握

採択事業者名 OpenStreet株式会社  
 コンソーシアム構成員 OpenStreet株式会社、株式会社三福快適生活、道後温泉旅館組合、道後商店街振興組合

勉強会の実施概要	
勉強会の目的	観光来訪者の移動動態データを知見のある地元企業と連携し、新たな観光資源の発見、気付きを観光誘致施策に繋げる事を目的とする。
勉強会の当初のゴール想定と結果	道後エリアと松山市中心地の相互送客を想定していたが、来訪者の多くが海側エリアなど広域に移動している良いデータがたくさん取れたため、市内最大15の商店街との連携など広域に回遊させる施策を行いたいと地元企業から声が上がった。
参加者	上記コンソーシアムメンバー、松山市議会議員、松山市役所、まちづくり松山
協議アジェンダ	実装プロジェクトについて、データから見た松山市の観光、松山市広域での利用傾向、道後エリアでの利用傾向、移動データのパターン、利用者アンケート、[参考]シェアサイクル活用での周遊施策例、ディスカッション
データに基づく協議ポイントの整理	来訪者の地域滞在時間の増加、リピート来訪を促すための施策として、土地勘を活かした施策をどのような地元関係者と施策を打つことができるか、コンソーシアムメンバー、地元自治体、企業と協議を行う。
主なデータ項目	一般的な愛媛県、松山市の観光来訪者データ 比較データとして、シェアサイクル利用データ(走行軌跡、利用時間、利用時間帯、滞留地点、滞留時間、滞留場所)ユーザー属性(居住都道府県、年代、滞在目的)
協議におけるガイドライン(含む具体例)	各種データの提供と導入事例、方法の提供は行いが、来訪者増加や長時間滞在の各種施策、データの活用は、地元企業で展開する事を促す。 県内他エリアに横展開する際に活用出来るようにするため、地元企業が自走する体制の構築をサポートする。
「実装成果」実現に向けた示唆/考察	上記『勉強会の結果』に記載の通り、想定以上の面白いデータが複数取得出来ている。具体的な施策として実装メンバーや地元企業からデジタルスタンプラリーを行い回遊させたい地点が出てきている事と、商店街通しの連携について調整を進める旨の提案があった。



データ活用・協議の具体例		
	実装前	実装後
重要指標例	地元企業が自らの意思でデータの活用方法、アイデアの創出ができる体制構築、及び実施体制構築を作り上げ自走するモデルを作ることで、他のエリアでの横展開に活用出来るものにする。 自走できるまでのデータの可視化方法の改善や提案は継続して実施していく。	
データ取得	<ul style="list-style-type: none"> <li>来訪者情報、属性が把握できず、日帰り観光客が多い。</li> <li>有名観光地はあるが、滞在時間の長時間化や回遊させる仕組みがない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用開始時間、ルート情報、滞在値情報、利用終了時間等、詳細な移動データ可視化し、利用ユーザーの属性をアンケートをもとにまとめた。</li> </ul>
データ利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ取得のスキームなし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>想定通りの動きと、想定外の動きの両方の動きを創出でき、データの可視化ができた。</li> <li>コンソーシアムメンバーや地元企業からは、前向きな活用提案が出てきている。</li> </ul>
実行	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光ガイド、イベント情報など、限定的な配信、発行のみで、あまり認知がされていない。</li> <li>ターゲット層が明確になっておらず、ターゲットに合わせた周知がされていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国の既存会員300万人に、アプリ上で道後温泉をアピールし、回遊させたいポイントをデジタルで表示してデジタルスタンプラリーとして回遊を促す仕組みを実施予定。</li> </ul>
協議	<ul style="list-style-type: none"> <li>データが無く、利用者へのアンケートも行われていないため、議論の材料がない状態。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルスタンプラリーの移動データやタッチ数を可視化し、コンソーシアムメンバーにフィードバックし、新たな施策、追加の施策を検討していく。</li> </ul>

データ活用・協議による成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>下記項目の具体的内容の意見が多く出ており、それぞれのアイデア内容に合わせた施策を実施していく。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>●訪問動機-展開エリアの拡大による長時間滞在、宿泊誘導</li> <li>●立ち寄り動機創出-POP掲載による地域情報の発信                             <ul style="list-style-type: none"> <li>-デジタルスタンプラリーの実施による商店街への誘導、スポット間相互送客</li> </ul> </li> <li>●新たな行動創出-車両種別を追加し新たな移動の促進、データの多様化分析</li> </ul> </li> </ul>

勉強会実績